

平成28年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光誘客宣伝事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	04040101
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	山本 貢 史
				連絡先	424

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 04 第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり			
			施策 05 第5節 観光の振興				
			細施策	—			
			事務事業	—			
	予算事業名	観光誘客宣伝事業費		会計コード 001 款 07 項 01 目 05 事業 02			
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内の観光地の魅力や可能性について再度磨きあげるために、特徴のある4つのエリア（豊科・八ヶ岳：白樺湖・車山、縄文の里）に分けてブランディングの推進を図るとともに、各エリアが連携して観光客の周遊・滞在を促進させることで新たな魅力を首都圏に向けて効果的な情報発信を行い、リピーターを増やすことで観光客の増加及び消費額の増加を目指します。また増加する訪日外国人旅行者に対して市場を絞ったプロモーションを展開するとともに、受入施設を増やし、延滞泊者数の増加と滞在時間の延長による消費額の増大を目指す。					
	現状と背景 （どうして）	当市を訪れる観光客及び観光消費額はH3年をピークにバブル崩壊等の経済の影響や旅行形態が団体から個人へと変わっていくことへの対応が遅れたことから続けていた。そこで、個人旅行に対応した観光資源の磨き直しと、インターネット等を使った新しい手法での情報発信による集客方法が必要となってきている。また、人口減少に伴う旅行者数の減少を補って					
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	観光事業者、商業関係者、交通事業者				
		対象 （直接働きかける）	国内：首都圏女子を中心とした個人旅行者、教育旅行、自然景観鑑賞ツアーでの団体旅行 海外：台湾、中国、東南アジア向けの団体旅行（雪、健康・スポーツ等）と個人旅行者（新規）				
		意図 （どんな状態にしたいか）	国内：新たな発見により茅野市を好きになりリピーター化による延滞泊者の増加と消費額の増大 海外：季節に偏らない年間を通して安定した集客				
	手段・方法 （どうやって）	国内：首都圏で雑誌、WEB、テナントでの運動したPRで効果的に首都圏での露出を増やすとともに、市内周遊イベントを開催して滞在時間の延長と消費額の増大を目指す。また、新たなテーマによる誘客を目指すために「健康」「スポーツ」をテーマにした「（仮称）白樺湖ランニングプロジェクト」の検討を行う。 海外：国内旅行の閑散期に集客が期待できる中華圏の旧正月シーズンの誘客を目指すために、海外旅行会社へのセールスを行う。また、個人旅行者誘致のための情報発信をWEBを中心に今後誘客方法を探る。					
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		活動指標	国内プロモーション事業の実施	実施回数（国内）	回	商談会やブース出展によるPRや広告掲載数	30
			海外プロモーション事業の実施	実施回数（海外）	回	商談会やブース出展によるPRや広告掲載数	20
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
			観光客数	観光地延利用者数	千人	長野県観光地利用者統計数	4,700
			観光消費額	観光消費額	百万円	長野県観光地利用者統計数	17,000

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度（予算 又は決算額）	平成29年度 事業計画（予算）	
			事業費等(a)	円	52,450,490	85,885,334	51,720,430	63,641,850
財 源 内 訳	国庫支出金	円					4,800,000	
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	480,000	40,000,000		15,433,000		
	一般財源	円	51,970,490	45,885,334	51,720,430	48,208,850	6,940,000	
	合計	円						
職 員 数	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人						
	対象（者）数							
	延利用（者）数(b)							
単 位 コ ス ト	単位コスト(a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	934.00	1,534.00	924.00	1,137.00	210.00	
	活 動 指 標	実施回数（国内）	目標			30	30	30
			実績			11	8	10
		達成率	%	—	—	36.67	26.67	33.33
目標					20	20	20	
実施回数（海外）		実績			4	4	4	
		達成率	%	—	—	20.00	20.00	20.00
成 果 指 標	観光地延利用者数	目標	千人	4,700	4,700	3,400	3,470	
		実績		3,186	3,194	3,281	3,400	
	達成率	%	67.79	67.96	69.81	95.44	97.98	
	観光消費額	目標	百万円	17,000	17,000	17,000	10,700	11,128
		実績		10,112	10,062	10,383	10,272	10,700
	達成率	%	59.48	59.19	61.08	96.00	96.15	
備考								

事務事業名	観光誘客宣伝事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040101
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	山本 貢史	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	国内では、首都圏でのPRを連動して行うとともに、新たなコンテンツの磨きあげを進める。検討する。海外誘客では、重点市場である台湾に加えて増加する東南アジア市場の誘客のため、諏訪地方観光連盟と連携した現地プロモーション及び招へい事業を実施する。	国内では長野県と連動して、銀座NAGANOを使ったワークショップとデモツアーの企画をすることが決まった。インバウンド事業は、目的を持った連泊旅行の誘致として台湾ゴルフ、香港トレッキングツアーの誘致の提案を行った。	国内デモツアーに向けた参加者の募集方法及び費用負担についての検討。インバウンド事業はゴルフツアーは滞在時の移動方法の検討が課題となった。
第2期	国内では、首都圏PR事業の各種事業の連動による効果的なPR方法の検討。インバウンド事業は具体的な誘客につながるプレゼンテーション等の実施。	国内首都圏PR事業では、八ヶ岳から白樺湖を活用する面的な滞在方法の提案を誌面、東京のカフェで露出することができた。また、ヤフーニュースに取り上げられるなど情報の拡散もできた。インバウンド事業では、香港トレッキングツアーの6泊の滞在の決定と台湾ゴルフツアーでは旅行会社の招聘事業を提案した。	国内首都圏PR事業では、3年間のプロモーションを終えて、一定のPR効果が得られた。茅野市に訪れる具体的な方法をでもツアーを通じて検証する。香港トレッキングツアーではルートの選定ができたが、リタイア者のサポート等が課題となった。
第3期	国内では、これまで提案してきた前泊登山のデモツアーを実施し参加者の反応を確かめる。インバウンド事業は香港トレッキングツアーの受入と台湾旅行会社のゴルフツアー招聘事業を実施してゴルフ場などとの商談を行い、具体的な商品造成につなげる。	国内でもツアーを実施して、参加者からは満足した感想が多く得られた。インバウンドでは、香港トレッキングツアーも180人泊の滞在があり、「吾の森」の関心が高く今後の商品造成の期待もできる。台湾ゴルフツアーも下見が終わり商品造成の可能性があった。	国内は、商品になった際のスタッフのサポート体制と料金設定のバランスが課題となった。インバウンドはトレッキングツアーのルート表示(国内は時間、海外は距離と標高)の違いなどに対応した資料作成が必要となった。台湾ゴルフはFIT(個人旅行)対応の交通手配が課題となった。
第4期	国内は次年度に向けた取り組みの検討を行う。インバウンド事業はより具体的な商品設定の提案を行う。	国内事業では、長野県ブランド推進室と打ち合わせを行い、今後の可能性について意見交換ができた。インバウンド事業では、台湾ゴルフツアーのFIT対応の交通手段の手配ができ、商品造成が決まった。	国内事業では、地域おこし協力隊と連携した事業形態の検討を行う。インバウンド事業について受入時のサポート体制の充実について検討していく。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 果 拡 充 ② ⑤ ⑦
国内事業はデモツアーから商品造成になったときのコーディネート役の育成と料金設定が課題となることがわかった。インバウンド事業は、特に台湾ゴルフツアーは個人旅行対応の交通手段の確保が新たな課題となった。	後 の 現 状 維 持 ③ ⑥ ⑨
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	方 向 性 縮 小 ④ ⑧ ⑩
	方 向 性 休 廃 止 ①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 (C H E C K)	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4					4						4
課 題	国内首都圏PR事業では、これまで展開してきた内容にターゲットそしてきた首都圏女性のニーズが合致することがわかった。また、アプローチ方法も何パターンか作ることができた。今後商品造成していく上でどのように販売するときに、同様の方法でターゲットにリーチできるか。また、旅行業法に適した販売方法等を検討する必要がある。インバウンド事業では、ゴルフツアー、トレッキングツアーともにより多くの要望が海外から来たときに官民一体となった受け入れ体制の整備が必要となった。																
記 号 の 定 義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要																
前年度総合評価判定																	
前年度評価シート整理番号																	
総 合 評 価	細 施 策 評 価 前								細 施 策 評 価 後								
	国内首都圏PR事業では、3年間継続したプロモーションによりターゲット層に一定の認知度を向上することができた。また、多様な組み合わせによる多くのプランができることも確認できた。インバウンド事業では、目的別旅行による長期滞在ができる地域であるという認識を海外の旅行会社に与えることができた。																
	国内首都圏PR事業では、3年間継続したプロモーションによりターゲット層に一定の認知度を向上することができた。また、多様な組み合わせによる多くのプランができることも確認できた。インバウンド事業では、目的別旅行による長期滞在ができる地域であるという認識を海外の旅行会社に与えることができた。																
	前年度改革・改善策の実施状況								実 施 済								
	前年度細施策評価における今後の方向性																

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A C T I O N)	細 施 策 評 価 前								細 施 策 評 価 後							
	今 後 の 方 向 性	成 果 拡 充 ② ⑤ ⑦	成 果 拡 充													
	現 状 維 持 ③ ⑥ ⑨	現 状 維 持														レ
	縮 小 ④ ⑧ ⑩	縮 小														
	休 廃 止 ①	休 廃 止														
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性														
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性														

改 革 ・ 改 善 策	PRから誘客までの一連のプロモーションの流れができたので、今後このノウハウを活用してより誘客促進を図るための方策の検討が必要である。インバウンド事業では目の前にある誘客だけでなく、ゴルフツアーのような個人旅行対応したプランの更なる検討が必要である。	PRから誘客までの一連のプロモーションの流れができたので、今後このノウハウを活用してより誘客促進を図るための方策の検討が必要である。インバウンド事業では目の前にある誘客だけでなく、ゴルフツアーのような個人旅行対応したプランの更なる検討が必要である。
-------------	--	--

最終評価年月日	平成29年5月19日	最終評価責任者	観光課長	北 沢 政 英
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光まちづくり支援事業	事業期間	平成 28 ~ 年度	整理番号	04050101	
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進室	作成担当者名	山本 征幸	連絡先	451

計	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 04 第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり 施策 05 第5節 観光の振興 細施策 01 観光活性化の組織強化 事務事業 -		
	予算事業名	観光まちづくり支援事業費		会計コード 001 款 07 項 01 目 05 事業 03		
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	茅野市観光協会、長野県国際観光推進協議会、長野県学習旅行誘致推進協議会、長野県観光機構等の団体と連携し、茅野市の観光まちづくりに寄与する様々な事業を進める。特に平成27年度に19団体・機関が参画して設立し、茅野市が事務局を担う「信州ビーナスライン連携協議会」、立科町と連携する「白樺湖活性化協議会」は茅野市が事務局を担う広域連携事業であることから、広域における地域づくりの視点から、スケールメリットを活かした事業を積極的に進める。また、観光まちづくりを推進していくにあたり、茅野市観光協会との連携体制の強化を図る。				
	現状と背景 (どうして)	観光立県を標榜する長野県において、利用者数上位50位内の主要観光地のうち7つの観光地がビーナスラインにより繋がっている。7つの観光地の合計延利用者は、旅行形態や高速交通網の変化、観光趣向の多様化への対応の遅れもあり、12,904千人を数えた平成3年をピークとして、平成26年には8,818千人にまで減少し、合計観光消費額は28%減少している。一方で、沿線市町における「宿泊・飲食産業」の就業者比率は非常に高く（特化係数/全国：1/沿線市町平均1.46）、ビーナスラインを軸とした観光の振興とブランドの再構築は、圏域の安定的な雇用確保のためにも必須の要素となっている。特に落ち込みの激しい白樺湖については、地元事業者と共にリブランドを図っていく必要がある。また、観光まちづくりを進める中核組織として茅野版DMOの創出を目指す中で、観光協会との融合を進める観点からも、これまで以上の連携体制を構築する必要がある。				
P 目 的	受益者 (誰のために)	市民、観光客、別荘利用者、事業者				
	対象 (直接働きかける)	国、県、広域連携自治体、関係団体、関係事業者、観光客、市民				
L 的 意 図 (どんな状態にしたいか)	意図	ビーナスライン沿線・近隣の自治体、団体等が連携協力し、一元的にこの地域ならではの広域的な観光及び産業の創出、景観及び環境の形成等を実施する。広域ビジョンを共有し、ビジョンに基づいた事業実施を推進することで地域ブランドの醸成及び交流人口の増加を図り、もって地域経済の活性化へと繋げる。 白樺湖を中心とした広域エリアにおいては、整備を進めるジョギングロードや、女神湖、草山の施設と併せて活用することで「健康と運動」をテーマとした誘客に繋げる。 観光協会が進める事業や取組、観光協会の基礎機能を融合する形での茅野版DMO創出。				
	手段・方法 (どうやって)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域観光ビジョンに基づき、国、県に対して環境整備を働きかける ・広域連携のスケールメリットを活かした情報発信を行う ・国、県の補助金、交付金等を最大限に活用し、単独では実現困難な事業を、実効性を持って展開する ・多様な業種、団体の参画を促し、組織の強化を図りながら民間の活力、知恵を引き出す 				
N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		事業実施のための部会の開催	部会の開催	回	広域事業を円滑に実施するため、合意形成の場を適切に設定し、運営する	12
		広域観光における情報発信ツールの作成	情報発信ツールの作成	件	パンフレット、マップ、チラシ等	2
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		広域ホームページのアクセス獲得 (ビーナスライン事業)	アクセス数	件	広域の情報発信の要であるホームページの利用者増加	100,000
		観光消費額	観光消費額	百万円	長野県観光地利用者統計数	10,700

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算又は決算額)	平成30年度事業計画(予算)	
実 施 状 況	事業費等(a)	円		3,500,000	18,621,000	38,662,000		
	財源内訳							
	国庫支出金	円		3,500,000	18,621,000			
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円				38,662,000		
	職員数							
	正規職員	人			2.00	3.00		
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人				2.00	3.00		
D O 指 標	対象(者)数							
	延利用(者)数(b)							
	単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	63.00	334.00	696.00	-	
	活動指標	部会の開催	目標			8	12	
			実績			12		
		達成率	%	-	-	150.00	-	-
		情報発信ツールの作成	目標			2	2	
	実績				5			
達成率	%	-	-	250.00	-	-		
ホームページ更新	目標			1	2			
	実績			1				
達成率	%	-	-	100.00	-	-		
成果指標	アクセス数	目標			1	100,000		
		実績			1			
	達成率	%	-	-	100.00	-	-	
	観光消費額	目標	百万円			4	10,700	
実績					2			
達成率	%	-	-	50.00	-	-		
備考	平成28年度までは、ビーナスラインを基軸とした広域観光事業として事務事業に位置付けていたが、予算事業との整合を図るため、他の団体事務(事務局を担う)と併せた事務事業として評価する。平成28年度指標から指標変更(協議会内で検討しながら年度ごとに実施事業を変更するため)。【参考 平成28年度指標：部会の開催、情報発信ツール作成、観光動態調査の実施、広域観光ビジョンの策定、組織の強化】 重点事業ヒアリング後、観光協会との連携について追記。成果指標についても協会の活動から生み出す指標に一部変更。							

事務事業名	観光まちづくり支援事業	事業期間	平成 28 ~	年度	整理番号	04050101
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進室	作成担当者名	山本 征幸	連絡先	451

期	目 標	実 績	課 題
第1期	事務局を担う団体の事業について、総会における重要事項の決議。白樺湖・車山・女神湖共通パンフ、イベントカレンダーの作成。ビーナスラインエリアのレンタカーモニタリング調査事業開始。		
第2期			
第3期			
第4期			

事 中 評 価						
管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）		拡 充			
			現 状 維 持	③	⑥	⑨
			縮 小	④	⑧	⑩
	休 廃 止	①				
				皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		

評価年度	当年度
------	-----

評 価	視 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
		1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
		チェック					4					4					

課 題 (CHECK)		記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要	前年度総合評価判定	
			前年度評価シート整理番号	

細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後										
		成 果 の 方 向 性	②	⑤	⑦		成 果 の 方 向 性										
		拡 充					拡 充										
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持										
	縮 小	④	⑧	⑩		縮 小											
	休 廃 止	①				休 廃 止											
				皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

最終評価年月日	平成29年5月19日	最終評価責任者	観光まちづくり推進室長	高 砂 樹 史
---------	------------	---------	-------------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光まちづくり推進事業	事業期間	平成 28 ~ 年度	整理番号	04050102	
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進室	作成担当者名	山本 征幸	連絡先	451

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり
				施策	05	第5節 観光の振興
				細施策	01	観光活性化の組織強化
				事務事業	-	-
予 算 事 業 名	観光まちづくり推進事業費			会計コード	001	款 07 項 01 目 05 事業 09
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	平成30年度を目標に公益を目的とする茅野版DMOを組成し、茅野版DMOを軸とした民間活力の導入による観光を活かしたまちづくりを推進する。茅野版DMOは、自主事業の実施により、行政からの支援を最小限とする自立した組織を目指す。組織の担い手としては、総務省の地域おこし協力隊及び集落支援員制度を活用することで、都市圏からの視点や感性を茅野市の観光まちづくりに導入する。					
現状と背景 （どうして）	市内観光地は、団体旅行を対象として発展してきた経過から、個人旅行への旅行形態の変化に対応しきれていない。こうした需要の変化に対応するために、マーケティングとマネジメント機能を持った組織を形成し、地域の素材を磨き、着地型商品を充実させていく必要がある。また、人口減少社会を迎えるにあたり、労働集約型産業である観光を切り口とすることで、雇用の創出を図り、生産年齢人口の確保を目指す。					
対 象	受益者 （誰のために）	市民、観光客、二地域居住者、観光事業者、各種産業				
	対象 （直接働きかける）	観光協会、農協、商工会議所、観光事業者、市民団体、各産業、国、県				
意 図 （どんな状態にしたいか）	観光地のための観光行政から脱却し、様々な産業、団体等を「観光」に結び付けながら、まちづくりや地域づくりに活用していく。人口減少社会を迎える中、市内の農業、商工業、福祉、教育等を着地型商品として活用し、個人旅行者による様々なニーズに対応する体制を築き、観光を活用しながら経済のバイを維持する取組をDMOにより実現する。					
手 段 ・ 方 法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域おこし協力隊、集落支援員制度の活用 ・ 観光協会との連携 ・ マーケティングデータ収集の仕組みづくり ・ 各産業や市民団体等と連携した着地型商品の企画造成と、旅行会社と連携した商品化 ・ 空き家、別荘活用の研究 ・ 地域版ウェブエージェント機能の構築とワンストップ窓口機能の構築 					
N 評 価 指 標 の 作 成	活動 指 標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		ウェブエージェントの基本設計	ウェブエージェント設計	件	ウェブエージェント基本設計作成	1
		新しい着地型商品（案）、体験プログラム（案）の造成	商品造成	件	着地型旅行商品、プログラム等	5
		観光まちづくりの担い手確保	人材確保	人	地域おこし協力隊員、集落支援員	5
	成 果 指 標	成 果 ・ 効 果 は 何 ？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		（仮称）観光まちづくり協議会設立	協議会設立	団体	DMOの前身となる組織の設立による具体的なDMO組成協議の着手	1
協議会組織の強化		協議会会員団体	団体	協議会運営及び事業執行に参画する団体の拡充	50	

項 目	単 位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
事業費等 (a)	円				80,864,000	
財 源 内 訳						
国 庫 支 出 金	円				9,750,000	
県 支 出 金	円					
地 方 債	円					
そ の 他 特 定 財 源	円					
一 般 財 源	円				71,114,000	
職 員 数	人				2.00	
正 規 職 員	人				12.50	
嘱 託 職 員	人				1.00	
臨 時 職 員	人				15.50	
合 計	人					
対 象 （ 者 ） 数						
延 利 用 （ 者 ） 数 (b)						
単 位 コ ス ト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受 益 者 負 担 額	円					
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	円	-	-	-	1,457.00	-
D O 活 動 指 標	ウェブエージェント設計	目標	件			1
		実績	件			
	商品造成	目標	件			5
		実績	件			
	人材確保	目標	人			5
		実績	人			
成 果 指 標	協議会設立	目標	団体			1
		実績	団体			
	協議会会員団体	目標	団体			50
		実績	団体			
備 考						

事務事業名	観光まちづくり推進事業	事業期間	平成 28 ~	年度	整理番号	04050102
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進室	作成担当者名	山本 征幸	連絡先	451

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期	DMOの前身となる協議会組織の設立と地方創生推進交付金を活用した事業の着手		
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価

今 後 の 方 向 性	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	成 果 的 方 向 性	拓 充	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	成 果 的 方 向 性	現 状 維 持	③	⑥	⑨
		成 果 的 方 向 性	縮 小	④	⑧	⑩
		成 果 的 方 向 性	休 廃 止	①		
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拓 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度 当年度

評 価 課 題 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定		
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4
	チェック					4					4					4
	課 題													記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要		
		前年度総合評価判定						前年度評価シート整理番号								
総 合 評 価	細 施 策 評 価 前						細 施 策 評 価 後									
	前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前				細 施 策 評 価 後					
		成 果 的 方 向 性	拓 充	②	⑤	⑦	成 果 的 方 向 性	拓 充			
		成 果 的 方 向 性	現 状 維 持	③	⑥	⑨	成 果 的 方 向 性	現 状 維 持			
		成 果 的 方 向 性	縮 小	④	⑧	⑩	成 果 的 方 向 性	縮 小			
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拓 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				皆 減 縮 小 現 状 維 持 拓 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					

最終評価年月日 平成29年5月19日 最終評価責任者 観光まちづくり推進室長 高砂 樹 史

平成28年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光振興支援事業	事業期間	平成 28 ~ 29 年度	整理番号	0404102
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	藤澤 勇
				連絡先	423

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 04 第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり 施策 05 第5節 観光の振興 細施策 02 ヒューマンツーリズムの発信 事務事業 -		
	予算事業名	観光振興支援事業費		会計コード 001 款 07 項 01 目 05 事業 03		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内には、八ヶ岳や山麓の観光を支える様々な団体があり、茅野市が会員として参加する団体や事務局を担当するなど公益的利便を目的とした団体も多数存在している。これらの団体では、観光客のための環境整備や安全対策、イベントの開催、体験型プログラムの推進など様々な活動を通じてヒューマンツーリズムの推進をしています。				
	現状と背景 （どうして）	茅野市を訪れる観光客数はピーク時と比較し6割近くまで減少している。茅野市の観光地を積極的にPRするため、各団体における活動を通じて魅力ある観光地づくりを推進し、おもてなしやサービス向上によってリピーター獲得へつなげるため。				
目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	茅野市の観光地を訪れる観光客				
	対象 （直接働きかける）	それぞれの活動団体及び、その構成団体				
意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	各活動団体が実施する環境整備や安全対策、イベントの開催、体験型プログラムの推進など様々な活動を通じてヒューマンツーリズムを推進し、観光客の満足度を向上させることによってリピーター客の獲得を目指す。					
手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	茅野市が事務局を担当している団体にあつては、会議開催、経理事務・一般事務を行い団体活動の円滑な実施を行う。様々なセクションとの調整が必要となる団体（農業と観光、JR促進、映画祭等）にあつては、庁内外の関係機関、団体との連絡調整を密に行うことによって、イベントやツーリズムの円滑実施を推進し、満足度向上に寄与する。					
N （ 評 価 指 標 の 作 成 ）	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	活動指標	総会、事務担当者会議	開催回数	回	団体ごとに必要とされる都度	40
		観光地における清掃美化活動	活動回数	回	観光地単位での清掃活動回数	35
	成 果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		観光客の入り込み	観光地延利用者数	千人	県観光地利用者統計調査	3,400
		観光消費	観光消費額	百万円	県観光地利用者統計調査	10,700

項 目	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度（予算 又は決算額）	平成29年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円	9,638,000	8,438,000	7,638,000	26,444,000	20,536,000		
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円							
その他特定財源	円				18,621,000			
一般財源	円	9,638,000	8,438,000	7,638,000	7,823,000	20,536,000		
職員数	人							
正規職員	人	0.84	0.78	0.73	0.73			
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.84	0.78	0.73	0.73			
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	172.00	151.00	137.00	476.00	371.00		
D （ 活 動 指 標 ）	開催回数	目標	回	44	44	40	40	
		実績	回	34	35	39	38	
		達成率	%	77.27	79.55	97.50	95.00	
	活動回数	目標	回	37	39	35	35	
		実績	回	35	34	29	31	
		達成率	%	94.59	87.18	82.86	88.57	
-	目標	-	-	-	-	-		
	実績	-	-	-	-	-		
	達成率	%	-	-	-	-		
O （ 成 果 指 標 ）	観光地延利用者数	目標	千人	4,700	4,700	3,400	3,470	
		実績	千人	3,186	3,194	3,281	3,400	
		達成率	%	67.79	67.96	69.81	95.44	
	観光消費額	目標	百万円	17,000	17,000	17,000	10,700	11,128
		実績	百万円	10,112	10,062	10,384	10,271	10,700
		達成率	%	59.48	59.19	61.08	95.99	96.15
備考								

事務事業名	観光振興支援事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040102
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	藤澤 勇	連絡先	423

期	目 標	実 績	課 題
第1期	各団体の定期総会等の開催 年間事業計画の策定 活動の見直しをしている団体によっては会員からの意見集約等実施	各団体において、理事会、定期総会等を実施	各団体ごとの活動方針について現状に合わせた意見が出された。
第2期	負担金支出・補助金交付事務の実施 各団体活動の実施、必要に応じて事務的支援	負担金・補助金の交付 各団体において年間計画に基づき事業を実施、会計事務など事務的支援実施	負担金、交付金の支出ができていない団体があった。
第3期	各団体活動の実施、必要に応じて事務的支援(継続)及び活動方針等の検討	「八ヶ岳中信高原国定公園」が現在活動休止中であり、今後の在り方について顧問(長野県・山梨県)等への意見照会を行い、会員の意見集約に向けて今後検討することとなった	役員任期や人事異動があり、当時を知る人が少ないことから議論が深まらない場合もあり、事務局としての調整に苦労した
第4期	実績報告等の取りまとめと次年度に向けた活動の検討、下準備	会計年度が終了となるため、年間を通じた活動の見直し、未実施事業の確認を実施あわせて現在活動していない団体の整理に向けて検討を開始	次年度事務局が観光まちづくり推進室へ移管されるものもあり、丁寧な引継ぎを心掛けたが、今後とも連絡を密にする必要がある

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 茅野市におけるDMO設立検討に向けて、来年度の事務局を観光課及び観光まちづくり推進室のどちらで行うかの検討が必要となった。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 小津安二郎記念・蓼科高原映画祭が来年度20回の節目を迎えることから、補助金の増額の要望がある。	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 年 度	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
評価の観点					4					4					4	A
課題	団体の運営については、活動内容に見合った補助金額を設定する必要があり毎年予算要求時に精査していく必要がある。 とりわけ第20回を迎える小津安二郎記念・蓼科高原映画祭は市内及び市外への文化の発信及び人の交流を加速し、もって市内観光事業の活性化が求められる															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号	04040102															

評 価 年 度	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	総合評価	一部の団体で活動の在り方や、存続の可否などの検討が開始された。今後とも会員の意見を集約しているとともに、観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、柔軟に対応していく必要がある。					一部の団体で活動の在り方や、存続の可否などの検討が開始された。今後とも会員の意見を集約しているとともに、観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、柔軟に対応していく必要がある。			
改革・改善策	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今後の方向性	成 果 の 方 向 性 拡 充		②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性 拡 充			
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	現在も団体ごとの活動の在り方や補助金額などを適宜精査しながら、同時に事務局としての運営事務を実施している。今後についても継続して観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、活動の在り方や補助金額を精査していく。					現在も団体ごとの活動の在り方や補助金額などを適宜精査しながら、同時に事務局としての運営事務を実施している。今後についても継続して観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、活動の在り方や補助金額を精査していく。				

最終評価年月日	平成29年5月19日	最終評価責任者	観光課長	北 沢 政 英
---------	------------	---------	------	---------

平成28年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	エコツーリズム推進事業	事業期間	平成 20 ~ 年度	整理番号	04010107
担当部署	産業経済部 商工課	産業振興係	作成担当者名	上田 佳秋	連絡先
					412

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 04 第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり		
			施策 05 第5節 観光の振興			
			細施策 02 ヒューマンツーリズムの発信			
			事務事業 01 エコツーリズム推進事業			
	予算事業名			会計コード 001 款 07 項 01 目 04 事業 02		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	エコツーリズム事業推進のための調査、研究及び支援活動や、地域資源の活用に関する事業、自然環境保護活動及び啓発活動等を支援する。				
	現状と背景 （どうして）	H20.6月に設立された茅野エコツーリズム協議会の理念に基づき、茅野市ならではのエコツーリズムを確立し、幅広い関係者が連携して推進できるよう事務局の商工会議所と協力して取り組んでいる。				
	目的 対象	受益者 （誰のために）	市民及び茅野市を訪れる人々等			
		対象 （直接働きかける）	会員、認定団体等			
	目的 意図 （どんな状態にしたいか）	地球環境と共生して、八ヶ岳、蓼科、白樺湖・車山、縄文の里の自然・文化・伝統等の資源を最大限に生かし、持続的発展ができる「まちづくり」と、それを支える「ひとづくり」を目指すと共に、茅野エコツーリズム協議会に加入する各活動団体の持続と発展を目指す。				
	手段・方法 （どうやって）	平成26年度途中から空席になっていた事務局長を選任し、当協議会の理念の定着と事業推進体制の強化を図る。また、会員団体等の推進活動を支援し、指導者の養成、ツアープログラム作成等のスキルアップを図る。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		加盟団体支援事業の実施	支援団体数	団体	エコツーリズムに取り組む事業団体の増	12
		ツアー案内人等の人材育成研修会の開催	研修会開催数	回	ツアー案内人、教育旅行等の指導者の育成	6
		成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など
		支援団体事業への参加者の増加	事業参加者数	人	活動指標12団体事業×平均20人	240

実施状況	項目	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度（予算又は決算額）	平成29年度事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	1,500,000	561,943	774,880
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職員数	一般財源	円	1,500,000	561,943	774,880	494,626	1,400,000
	正規職員	人	0.26	0.20	0.20	0.20	
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.26	0.20	0.20	0.20	
状況	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
O （ ）	活動指標	支援団体数	目標	12	12	12	12
			実績	7	7	9	9
		達成率	%	58.33	58.33	75.00	75.00
		研修会開催数	目標	6	6	6	6
			実績	1	1	0	9
		達成率	%	-	16.67	0.00	150.00
	成果指標	事業参加者数	目標	240	240	240	240
			実績	200	548		221
		達成率	%	83.33	228.33	-	92.08
		-	目標	-	-	-	-
			実績	-	-	-	-
		達成率	%	-	-	-	-
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・市民プランの細施策において横断的な事務事業である。政策体系番号 02030202 03020401 ・平成25年度から平成24年度以降の活動指標、成果指標を変更（当協議会が行う事業が、補助から事業委託へと変更になったため） ・平成27年度から活動指標を変更「委託事業実施数」→「支援団体数」 						

事務事業名	エコツーリズム推進事業	事業期間	平成 20 ~	年度	整理番号	04010107
担当部署	産業経済部	商工課	産業振興係	作成担当者名	上田佳秋	連絡先
						412

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価

の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）		現 状 維 持	③	⑥	⑨
			縮 小	④	⑧	⑩
			休 廃 止	①		
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度 当年度

評 価 課 題 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4			レ	レ	2						
課 題	エコツーリズムの理念等の周知のほか、地域の豊富な観光資源を有効活用し観光振興等につながるよう、より効果的な事業展開を推進する体制づくりが課題。												記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要			
					前年度総合評価判定					C	前年度評価シート整理番号				04010107		

総 合 評 価 （ C H E C K ）	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
	協議会のあり方、事業の方向性についての見直しと検討を行い、新たな事務局員を迎え新組織体制のもとに再スタートした。会員の活動支援に努め、会員主体の取組、活動を活性化させ茅野市におけるエコツーリズムを推進する。	協議会のあり方、事業の方向性についての見直しと検討を行い、新たな事務局員を迎え新組織体制のもとに再スタートした。会員の活動支援に努め、会員主体の取組、活動を活性化させ茅野市におけるエコツーリズムを推進する。
	前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後						
	改 革 ・ 改 善 策	成 果 的 拡 充	②	⑤	レ	⑦			
		現 状 維 持	③	⑥		⑨			
		縮 小	④	⑧		⑩			
休 廃 止		①							
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
		エコツーリズムの理念により茅野市の自然・文化・伝統等の資源を最大限に生かし、持続的発展ができる「まちづくり」につなげるためにも「観光」主導による体制の見直しが必要。				エコツーリズムの理念により茅野市の自然・文化・伝統等の資源を最大限に生かし、持続的発展ができる「まちづくり」につなげるためにも「観光」主導による体制の見直しが必要。			

最終評価年月日 平成29年5月19日 最終評価責任者 商工課長 上田佳秋

平成28年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	千駄刈自然学校管理運営事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040105
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳平智秀	連絡先	424

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり							
				施策	05	第5節 観光の振興							
				細施策	02	ヒューマンツーリズムの発信							
				事務事業	06	ヘルスツーリズム推進事業							
	予算事業名			会計コード	001	款	07	項	01	目	05	事業	02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	平成21年から茅野市が千駄刈自然学校を所有し、NPO法人蓼科八ヶ岳国際学校に運営を委託している。NPO法人蓼科八ヶ岳国際学校が自然体験学習を目的とした学習プログラムを企画し実施することで、千駄刈自然学校の運営を行い、自然体験の観光振興を図っている。											
	現状と背景 （どうして）	千駄刈自然学校の施設管理を茅野市が行っており、運営は委託をしている。委託先のNPO法人蓼科八ヶ岳国際学校が一人立ちすることを目標に、施設管理と、運営の指導を行う。また、自然体験のずばらしさをアピールし、茅野市の観光振興を図りたい。											
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校、市民および観光客										
		対象 （ 直 接 働 き か け る ）	NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校、市民および観光客										
	意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	参加者が増加する体験プログラムを充実させ、市民および観光客の集客に繋げる。											
	手段・方法 （ ど う や っ て ）												
N （ ）	活動 指 標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
		プロモーション活動		回	体験プログラムのプロモーション	5							
		パンフレットによる配布による情報発信	配布枚数	枚	パンフレットを郵送や訪問により配布する	1,000							
	成 果 指 標	プログラムの検討	検討会議	回	プログラムの分析に対する検討会議	2							
		成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
		体験プログラムの参加者数	利用者数	人	体験プログラムへの参加者数	8,000							

項 目	単 位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度（予算 又は決算額）	平成29年度 事業計画（予算）			
事業費等 (a)	円	4,280,685	4,089,399	4,155,620	5,062,192	4,980,000			
財源内訳									
国庫支出金	円								
県支出金	円								
地方債	円								
その他特定財源	円	34,100	14,850	3,000	12,180	3,000			
一般財源	円	4,246,585	4,074,549	4,152,620	5,050,012	4,977,000			
職員数									
正規職員	人	0.20	0.03	0.03	0.03				
嘱託職員	人								
臨時職員	人								
合計	人	0.20	0.03	0.03	0.03				
対象（者）数									
延利用（者）数 (b)									
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	76.00	73.00	74.00	90.00	89.00			
D O （ ）	活動 指 標	—	目標	回	5	5	5	5	5
			実績	回	5	5	5	5	5
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
	配布枚数	目標	枚	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
		実績	枚	500	1,000	1,000	1,000	1,000	
		達成率	%	50.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
検討会議	目標	回	2	2	2	2	2		
	実績	回	2	2	2	2	2		
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		
成 果 指 標	利用者数	目標	人	8,000	8,000	8,000	8,000		
		実績	人	4,751	5,039	6,405	6,664	8,000	
	達成率	%	59.39	62.99	80.06	83.30	100.00		
—	目標	—							
実績	—								
達成率	%	—	—	—	—	—			
備考	臨時職員の人件費は事業費（a）に含まれています。								

事務事業名	千駄川自然学校管理運営事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040105
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳平智秀	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	自然体験ができるプログラムを東京、大阪、名古屋、九州、関東において、プロモーションの開催を行う。サマーキャンプの保護者説明会を横浜及び東京会場にて実施する。	7/3東京、7/16大阪にて教育旅行誘致説明会を実施した。6/18・19サマーキャンプの説明会を実施した。悪天候時にコミュニティセンターを利用できるように調整した。	悪天候時の対策としてコミュニティセンターを交渉したが、利用方法について詳細に検討、調整することが必要である。
第2期	7/24から3泊4日8コースで実施する。千駄川自然学校と、体験プログラムをパンフレットの配布により情報を発信する。コミュニティセンターの利用に際し調整を図る。	修学旅行を企画する旅行会社をターゲットに訪問によるパンフレットの配布を行い、修学旅行や野外学習の場所に千駄川自然学校を使ってもらえるように、宣伝活動をおこなった。また、ダイレクトメールの送付を行い、施設とプログラムの宣伝を行った。	訪問による宣伝活動の中で、天候の変化に対応できるプログラムを対応できるようになった。利用度を高めたい。
第3期	プログラムの企画と実施を委託しているNPO法人国際自然学校との検討会議を開催し、新しい遊具の導入とプログラムの企画と実施の改善について検討を行う。	雨天時において、コミュニティセンターの利用したプログラムにて誘客を図れた。コミュニティセンターの仮予約3件。	宿泊棟の老朽化が進んでいる。早急な対応が必要である。
第4期	宿泊棟の修繕工事の施工が必要である。	宿泊棟修繕工事の施工を行った。	千駄川自然学校の延べ利用者が8000人(利用者総数6664人)に近づいた。指定管理者制度を検討する必要がある。

事中評価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 コミュニティを利用した悪天候に対応できる施設を立案することが必要である。これに対するプログラムも立案することが必要である。	今後の方向性																				
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 指定管理者制度の導入を図りたい。	方向性																				
	<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡大</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡大	③	⑥	⑨	維持	④	⑧	⑩	縮小	①			休廃止			
成果の方向性	②	⑤	⑦																		
拡大	③	⑥	⑨																		
維持	④	⑧	⑩																		
縮小	①																				
休廃止																					

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	現在施設を茅野市が所持し、プログラムの企画、運営をNPO法人国際自然学校へ委託している。今年度の千駄川自然学校の利用者が延べ8,000人に近づいた。利用者数は6,664人であるが、指定管理者制度の導入を図りたい。	記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要
		前年度総合評価判定 前年度評価シート整理番号

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	オリエンテーリング等を行うことで他県からの利用者が多くなり、全国で最も標高の高いオリエンテーリングコースとして将来的にも来場者の増加が見込まれる。 雨天時対策が図れた中、プロモーション活動、プログラムの充実化を進める必要がある。また、施設が老朽化してきているため、維持管理費についても検討が必要である。 指定管理者制度導入を検討したい。	オリエンテーリング等を行うことで他県からの利用者が多くなり、全国で最も標高の高いオリエンテーリングコースとして将来的にも来場者の増加が見込まれる。 雨天時対策が図れた中、プロモーション活動、プログラムの充実化を進める必要がある。また、施設が老朽化してきているため、維持管理費についても検討が必要である。 指定管理者制度導入を検討したい。								
	前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性								

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
拡大	③	⑥	⑨							
維持	④	⑧	⑩							
縮小	①									
休廃止										
方向性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				

改革・改善策	指定管理者制度の導入。	指定管理者制度の導入。
--------	-------------	-------------

最終評価年月日	平成29年5月19日	最終評価責任者	観光課長	北沢政英
---------	------------	---------	------	------

平成28年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		観光施設整備事業		事業期間	平成 23 ~ 29 年度	整理番号	0404104					
担当部署		産業経済部		作成担当者名	柳 平 智 秀	連絡先	424					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり						
			施策	05	第5節 観光の振興							
			細施策	05	観光拠点の整備							
			事務事業	—								
	予算事業名	観光施設整備事業費		会計コード	001	款	07	項	01	目	05	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	4エリアごとの特徴を生かした観光施設整備を行うとともに、観光客が、気持ちよく安全に満喫できる施設整備を行う。 八ヶ岳エリア 登山道整備、トイレ整備、駐車場の整備 白樺湖・車山エリア 白樺湖ジュギングコースの整備、看板整備、トイレ設置 蓼科湖エリア 蓼科湖遊歩道及び拠点施設の整備 縄文の里エリア 晴ヶ峰観光施設（峠の茶屋）の整備計画の検討											
現状と背景 （どうして）	八ヶ岳エリアは、登山ブームにより登山者が増加し、安全な登山道の整備求められている。白樺湖エリアは、散策や大自然をロケーションとした眺望を楽しむ事他に、「スポーツ、健康」といった新しいコンセプトに基づいた誘客を行う事を目的として整備をする。蓼科高原の核となる蓼科湖を整備し、この土地を訪れる観光客が必ず立ち寄る施設を目指す。											
目的	対象	受益者 （誰のために）	市民、観光客、登山者									
	対象	対象 （直接働きかける）	同上									
的 意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	意図	八ヶ岳エリア 初心者からエキスパートまで安全に、快適な登山が楽しめるように整備する。 白樺湖・車山エリア 駅伝合宿誘致をし、選手を目当てにランナーが集う白樺湖を目指す。 蓼科湖エリア 蓼科湖に集客の核となる施設を整備し、活気あるブランドの蓼科を取り戻す。										
	手段・方法 （どうやって）	自然環境整事業、パイロット事業を活用し、整備の遂行を図る。 八ヶ岳エリア 登山道整備工事、トイレ整備工事、桜平登山口駐車場整備工事の実施 白樺湖・車山エリア 白樺湖遊歩道整備工事、看板整備工事、クロスカントリーコース調査、合宿誘致活動、車山山頂トイレ設置工事 蓼科湖エリア 蓼科湖遊歩道整備工事及び核となる拠点施設の整備、御射鹿池周辺道路・駐車場整備工事 縄文の里エリア 峠の茶屋で営業している業者と整備計画の検討を行う。										
N （ 評 価 指 標 の 作 成 ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値				
		自然環境整備事業の促進										
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値				
		ジョギングコース利用者数の増加	延利用者数	千人	8ヶ月×30日×100人=240,000			240				
	蓼科湖観光客数の増加	延利用者数	千人	365日×3000人=1,000,000			1,000					

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単 位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度（予算 又は決算額）	平成29年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	81,501,420	73,377,144	105,662,880
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円	25,868,000	29,208,000	44,272,000	28,589,000	33,706,000
	地方債	円	12,300,000	14,300,000	16,500,000	27,000,000	6,500,000
	その他特定財源	円	14,121,000	19,166,520	36,445,780	133,792,476	33,406,000
	一般財源	円	29,212,420	10,702,624	8,445,100	22,067,000	6,207,000
職 員 数	正規職員	人					
	嘱託職員 臨時職員	人					
対 象 （ 者 ） 数	延利用者数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—
受 益 者 負 担 額	市民一人当たりのコスト	円	1,456.00	1,311.00	1,892.00	4,956.00	
	活動指標	目標 実績 達成率	— — %	— — %	— — %	— — %	— — %
成 果 指 標	延利用者数	千人	240 4 1.67	240 5 2.08	240 10 4.17	240 13 5.42	240 100 41.67
	延利用者数	千人	1,000 10 1.00	1,000 10 1.00	1,000 10 1.00	1,000 10 1.00	1,000 100 10.00
備 考							

事務事業名	観光施設整備事業	事業期間	平成 23 ~ 29 年度	整理番号	04040104
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳 平 智 秀
				連絡先	424

期	目 標	実 績	課 題
第1期	委託業務、工事の発注準備 自然公園法及び保安林、国有林等の申請書提出 事業展開について地元協会との調整	申請書関係は提出を行った。起工した工事は、白樺湖遊歩道工事他9件。 御射鹿池測量設計は発注および竣工した。	工事の着手時期と竣工時期を考慮しての工程の立案が必要である。発注業務が完了した工事について、工程管理を行い、早期竣工を目指す。
第2期	工事発注業務の完了。 夢科湖交流広場の用地買収業務を進める。	工事の発注は、御射鹿池観音様移設の4件他を発注し、竣工したのは工事白樺湖遊歩道整備工事他5件であった。 夢科湖交流広場の用地買収業務について契約を行った。	第3期は秋の行楽シーズンと降雪の前に施工しなければならない工事について、工程管理の指導が必要である。 峠の茶屋の売却業務推進を図ることが必要である。
第3期	請負業者と打合せを行い、各工事の着手時期、竣工時期の工程を立案し、スムーズな施工を行う。 峠の茶屋の売却業務推進を図る。	発注業務を行った工事は、横谷峡遊歩道橋梁工の1件。竣工は全ての6件を行った。 峠の茶屋の売却に向けて業務を進めた。	12月の降雪前に竣工しなければならない工事については、全て現場の竣工とすることができた。最終の第4期を迎え、年度内竣工を目指し、発注業務を行う。 峠の茶屋の売却に向けて業務を進めることが必要である。
第4期	峠の茶屋の売却、夢科交流広場の用地買収業務を完了すること。	峠の茶屋の売却、夢科交流広場の用地買収業務を完了することができた。	平成29年度の自然環境整備事業の準備を進めること。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 第3・4期は冬期間になるため、秋の行楽シーズンと降雪の前に施工しなければならない工事について、工程管理が必要である。10月中旬から11月中旬の短期間に施工しなければならない工事について重点的に行なわなければならない。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 地方創生拠点整備交付金と自然環境整備支援事業の補助事業の調整を図る。	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	峠の茶屋の売却、夢科湖交流広場の用地買収について、計画的に進められたことは良かった。その他の工事についても、自然公園法等の協議や工事発注、竣工等計画的に進められた。今後も、業者の工程管理が楽になるように早期起工に努める事が必要である。平成29年度の事業について、地元協会との事前打合せを工程管理に組み入れ、年間を通してスムーズな事業推進、観光客に影響の少ない工程を立てることが必要である。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定	
	前年度評価シート整理番号	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	観光客の利便性を考慮して施設の整備を進めて行くことが必要である。白樺湖、夢科湖、桜平駐車場、御射鹿池駐車場の大型事業が遂行される中、トイレの整備が必要とされていることから現状維持が妥当である。	観光客の利便性を考慮して施設の整備を進めて行くことが必要である。白樺湖、夢科湖、桜平駐車場、御射鹿池駐車場の大型事業が遂行される中、トイレの整備が必要とされていることから現状維持が妥当である。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充		
	現 状 維 持		③	⑥	⑨		現 状 維 持		レ	
	縮 小		④	⑧	⑩		縮 小			
	休 廃 止	①					休 廃 止			
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

改革・改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地元協会との定期的な打合せを行う。 ・工期短縮を図れる工法検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元協会との定期的な打合せを行う。 ・工期短縮を図れる工法検討を行う。 ・工事の進捗によりコスト減少が見込まれる
--------	---	---

最終評価年月日	平成29年5月19日	最終評価責任者	観光課長	北 沢 政 英
---------	------------	---------	------	---------

平成28年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光施設維持管理事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040103					
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳 平 智 秀			連絡先	424					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり								
				施策	05	第5節 観光の振興								
				細施策	05	観光拠点の整備								
				事務事業		—								
	予算事業名				会計コード	001	款	07	項	01	目	05	事業	05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	当市の観光エリアには、登山道、遊歩道、園地、公衆トイレが多くある。現在、茅野市を訪れる観光客が減少しているが、観光客数に関係なく、茅野市を訪れて来た観光客が、安全に観光を満喫でき、快適に公衆トイレを利用できるよう施設維持管理を行う。 また、蓼科エリアの誘客を目的に湖畔に位置する彫刻公園を市民、観光客等に無料開放し、湖周の整備と一体化を図り、相乗効果をあげる。												
	現状と背景 （どうして）	観光地では、観光客が安全かつ、快適に観光ができるよう登山道、遊歩道、観光案内看板を含む園地等での修繕が不可欠である。また、公衆トイレは非常に重要な施設であり、清潔感を保つことが重要である。 また、蓼科湖の集客力が低下しており、周辺の魅力をあげる取り組みが必要とされている。												
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	市民、観光客、登山者										
		対象 （直接働きかける）	施設をパトロールする団体や施設を維持管理する団体											
		意図 （どんな状態にしたいか）	安全で快適な魅力ある観光施設を目指し、「茅野市に来てよかった」と思われる施設を目指す。 市民、観光客で蓼科湖周辺が賑わい、観光業を活性化させる。											
	手段・方法 （どうやって）	遊歩道の巡回の強化をし、維持工事が必要な箇所は迅速に対応する。 公衆トイレの点検回数、清掃回数を増やす。 リゾートホテル蓼科を経営する法人と契約を締結し、蓼科湖畔に位置する同ホテル彫刻公園を市民、観光客等に無料で開放し、誘客につなげる。												
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		活動指標	遊歩道の維持管理	遊歩道等の巡回数	回	観光客等の入り込みが予想されるシーズン中。各月の連休前後等の巡回（月3回）				36				
			トイレ清掃、点検回数	トイレ清掃、点検回数	回	週3回の点検清掃（週3回×4週）×12ヶ月				144				
		広告宣伝	広告掲載数	回					5					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
			観光客等からの苦情を無くす	非苦情発生件数	件	1年間に観光客等からの苦情がなかった日を1件として				365				
		観光客の入り込み数	観光地延利用者数	千人	県観光地利用者統計調査				4,700					

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度（予算 又は決算額）	平成29年度 事業計画（予算）	
			事業費等(a)	円	29,132,903	29,762,585	26,943,879	31,163,904
財 源 内 訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	2,513,899	2,735,296	2,252,791	2,530,753	861,000	
	一般財源	円	26,619,004	27,027,289	24,691,088	29,021,000	33,569,000	
	合計	円						
職 員 数	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人						
	対象（者）数							
	延利用（者）数(b)							
単 位 コ ス ト	単位コスト(a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
活 動 指 標	遊歩道等の巡回数	目標	36	36	36	36	36	
		実績	33	36	36	36	36	
		達成率	91.67	100.00	100.00	100.00	100.00	
	トイレ清掃、点検回数	目標	144	144	144	144	144	
		実績	96	96	96	96	96	
		達成率	66.67	66.67	66.67	66.67	66.67	
	広告掲載数	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	
	成 果 指 標	非苦情発生件数	目標	365	365	365	365	365
			実績	360	360	360	360	365
			達成率	98.63	98.63	98.63	98.63	100.00
観 光 地 延 利 用 者 数	千人	目標	4,700	4,700	4,700	4,700	—	
		実績	—	—	—	—	—	
		達成率	—	—	—	—	—	
備 考								

事務事業名	観光施設維持管理事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040103
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳平智秀	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	施設のバトロールを行う団体や施設を使用している団体、管理している団体との連絡体制を確認する。彫刻公園についてプレス等によるPR	施設のバトロールを行う団体や施設を管理している団体との調整、確認を行った。また、冬期間に破損した箇所等の確認を行った。彫刻公園の利用広報は、別荘用広報の「夏のおたより」への掲載をした。	茅野市全域において老朽化している観光施設の把握をすることが大切である。施設の破損による事故を防止することが必要である。
第2期	管理者と、登山道、遊歩道等の巡回について頻度、方法の打合せを行う。 平成27年度修繕工事に着手する。 夢科湖遊歩道等整備との連携調整	登山道について八ヶ岳観光協会と現地確認を行い、状況を確認した。 工事発注は白樺湖照明灯修理工事他1件と、登山道整備委託北八ヶ岳を行った。	第3期は秋の行楽シーズンや降雪等により工程管理が難しい。特に登山道整備について、工程管理の指導が必要である。また、冬期間の前に施設の点検を行う必要がある。
第3期	請負業者と打合せを行い、登山道整備の着手時期、竣工時期の工程を立案し、スムーズな施工を行う。また、冬期間の前に施設点検を行う。	工事発注は大滝神社遊歩道改修工事の1件。竣工をした業務は無芸荘進入路工事他2件。	リゾートホテルとの負担金の調整及び契約更新の確認を行う。 彫刻公園の市民等及び学校関係への利用の促進
第4期	彫刻公園の契約更新の確認を行い、手続きを行う。 彫刻公園の夢科湖遊歩道等整備との連携調整、プレス等によるPR。	工事発注はお茶清水修繕、取水の2件。 公衆トイレ管理委託業務3件の竣工。 工事、委託竣工は登山道整備事業他3件。	登山道整備委託業務について補助金の申請から採択までの時間が掛かり、作業時間が短くなっている。採択の時期を短縮するようにを図る必要がある。

事 中 評 価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性																				
第3・4期は冬期間になるため、秋の行楽シーズンと降雪の前に施工しなければならぬ工事について、工程管理が必要である。 冬期間の前に施設点検の必要がある。																					
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）																					
観光客の利便性向上を目指し、トイレの洋式化が必要である。																					
<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性</td> </tr> </table>		成果の方向性	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①			皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性			
成果の方向性	②	⑤	⑦																		
現状維持	③	⑥	⑨																		
縮小	④	⑧	⑩																		
休廃止	①																				
皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性																					

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	

課題	<ul style="list-style-type: none"> 公衆トイレについて洋式化を図る必要がある。 観光施設の破損等の事故時において早期の対処を行える体制を構築することが必要である。 登山道、遊歩道、については最低限の維持管理費で賄える方法や工法を検討する必要がある。 彫刻公園について、市民等が関心を持ち、利用していただけるようなプロモーションの検討が必要である。 	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定	
前年度評価シート整理番号		

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	新しい施設から、老朽化が激しい施設まで幅広く、数量的にも多くある。このさまざまな施設を最低限の維持管理費で賄える方法や工法を検討することが大切である。また、公衆トイレの洋式化などの観光客の満足度を上げる必要がある。 彫刻公園について、各種イベントも多くなってきている。これをきっかけに市民を初め、勧告客の利用を高めたい。						新しい施設から、老朽化が激しい施設まで幅広く、数量的にも多くある。このさまざまな施設を最低限の維持管理費で賄える方法や工法を検討することが大切である。また、公衆トイレの洋式化などの観光客の満足度を上げる必要がある。 彫刻公園について、各種イベントも多くなってきている。これをきっかけに市民を初め、勧告客の利用を高めたい。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後																																												
	<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性</td> </tr> </table>	成果の方向性	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①			皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性									<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性</td> </tr> </table>					成果の方向性				現状維持				縮小				休廃止				皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性		
成果の方向性	②	⑤	⑦																																															
現状維持	③	⑥	⑨																																															
縮小	④	⑧	⑩																																															
休廃止	①																																																	
皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性																																																		
成果の方向性																																																		
現状維持																																																		
縮小																																																		
休廃止																																																		
皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コスト 投入 の 方向 性																																																		

改革・改善策	<ul style="list-style-type: none"> 地元協会のボランティアによる活動を取り入れる。 現地発生材を利用したような工法検討を行う。 彫刻公園のプロモーションに努め、湖周の整備と一体化することで、相乗効果をあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元協会のボランティアによる活動を取り入れる。 現地発生材を利用したような工法検討を行う。 彫刻公園のプロモーションに努め、湖周の整備と一体化することで、相乗効果をあげる。
--------	--	--

最終評価年月日	平成29年5月19日	最終評価責任者	観光課長	北 沢 政 英
---------	------------	---------	------	---------

平成28年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光温泉施設管理事業（すずらの湯）	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040106
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	藤澤 勇	連絡先	424

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり									
			施策	05	第5節 観光の振興									
			細施策	05	観光拠点の整備									
			事務事業	09	—									
	予算事業名	観光温泉施設管理運営費			会計コード	001	款	07	項	01	目	05	事業	08
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	平成21年から茅野市がすずらの湯を所有し、茅野市総合サービスに運営を委託している。茅野市が施設の管理を行い、茅野市総合サービスが運営を行う。												
	現状と背景 （どうして）	国内外の経済状況の悪化を受けた生活防衛のための出控え、高速交通網の進展に伴う通過地点化、スキー人口の激減、大手宿泊施設の廃業・廃屋化によるイメージダウンなど、観光客の減少が続いている。これに伴い、すずらの湯の利用者の増加は図れていない。												
	目的	受益者 （誰のために）	観光客、市民											
		対象 （直接働きかける）	同上											
		意図 （どんな状態にしたいか）	観光地の温泉施設として、観光の際に必ず立ち寄る施設を目指し、さらに、すずらの湯を目的として白樺湖を訪れるように施設の充実を図る。また、白樺湖をスポーツトレーニングの宿泊地とし、「温泉と食」をテーマにした観光地を目指す。											
	手段・方法 （どうやって）	観光地の温泉施設として、観光の際に必ず立ち寄る施設を目指し、さらに、すずらの湯を目的として白樺湖を訪れるように施設の充実を図る。また、白樺湖をスポーツトレーニングの宿泊地とし、「温泉と食」をテーマにした観光地を目指す。												
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		温泉施設の維持管理	機械設備の点検	回	管理委託業者による開場前の点検	365								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		利用者からの苦情をなくす	非苦情発生件数	件	1年間に利用者からの苦情がなかった日を1件として	365								
		温泉利用者数	入場者数	人	茅野市総合サービス株式会社が目標としている数字（自社の年間の運営ができる）	120,000								

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度（予算 又は決算額）	平成29年度 事業計画（予算）	
			事業費等(a)	円	23,778,587	16,362,022	14,815,551	17,969,432
財 源 内 訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	8,169,152	8,001,809	8,039,275	8,087,091	8,550,000	
	一般財源	円	15,609,435	8,360,213	6,776,276	9,882,341	5,404,000	
職 員 数	正規職員	人	0.20	0.14	0.14	0.14		
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人	0.20	0.14	0.14	0.14		
	対象（者）数							
	延利用（者）数(b)							
	単位コスト(a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	423.00	292.00	266.00	324.00	252.00	
活 動 指 標	機械設備の点検	目標	回	365	365	365	365	365
		実績		365	365	365	365	365
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	—	目標	—					
		実績	—					
		達成率	%	—	—	—	—	—
成 果 指 標	非苦情発生件数	目標	件	365	365	365	365	365
		実績		355	340	352	355	365
		達成率	%	97.26	93.15	96.44	97.26	100.00
	入場者数	目標	人	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
		実績		81,435	79,884	80,247	80,731	81,600
		達成率	%	67.86	66.57	66.87	67.28	68.00
備考								

事務事業名	観光温泉施設管理事業（すずらの湯）	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040106
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	藤澤 勇	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	指定管理者と連絡を密にして、施設状況を把握するとともに、来期以降スムーズな運営が行われるよう指定管理者更新事務を開始する。	工事発注の準備、来年度からの指定管理者更新業務を進めた。	休館日の調整、他の施設との指定管理者更新業務の整合が必要である。
第2期	工事の発注業務。 大学駅伝チームのすずらの湯利用料減免について検討する。	10月の休館日を設定し、工事を施工した。 大学駅伝チームのすずらの湯利用料減免制度を設計した。 発注工事、玄関改修、屋根工事1件。	利用者に迷惑がかからないよう、工期短縮を図る。
第3期	工期短縮を図る工程管理。 利用客増加に対する検討を行う「すずらの湯利用促進協議会」の開催する。	施設改修工事他2件の発注と竣工をした。	平成29年度工事の計画と、総合的な計画の立案。
第4期	平成28年度工事の打合せ。 設備の取替時期、維持管理方法について、総合的な計画を立てる。	サウナ天井張替工事を発注し施設改修を行った。	翌年後工事の優先順位を立て、準備を進める。

事中評価																		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 屋根の老朽化が激しく、改修が必要となった。計画的に施設整備する必要があるが、突発的な事項が多い。改修計画の見直しが必要である。	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡大</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡大	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①		
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦													
	拡大		③	⑥	⑨													
	現状維持		④	⑧	⑩													
	縮小	①																
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） サウナ室の施設の老朽化が激しい。 トイレの洋式化を要望する利用者の声が多い。	<table border="1"> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	休廃止	①															
休廃止	①																	

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	施設が年々老朽化するなかで、いかにして設備投資費を少なくして温泉施設を維持していくか。 また、落雷等突発的な事案に対する対応について検討する必要がある。 その他は、営業面に対する苦情を無くす対策を講じる必要がある。特に、食堂の改善を考える必要がある。															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定															A
	前年度評価シート整理番号															04040129

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	茅野市の大事な温泉施設であり、誘客を図るには大切な施設であるので、現状のまま維持することが妥当である。 平成28年度の修繕工事により建物修繕が進められた。	茅野市の大事な温泉施設であり、誘客を図るには大切な施設であるので、現状のまま維持することが妥当である。 平成28年度の修繕工事により建物修繕が進められた。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後																									
	欠陥個所の早期発見に努め、被害を最小限にして施設を維持していく。 食堂の運営方法の改善。	欠陥個所の早期発見に努め、被害を最小限にして施設を維持していく。 食堂の運営方法の改善。																													
今後の方向性	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">成果の方向性</td> <td>拡大</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>										成果の方向性	拡大		②	⑤	⑦	現状維持		③	⑥	⑨	縮小		④	⑧	⑩	休廃止	①			
成果の方向性	拡大		②	⑤	⑦																										
	現状維持		③	⑥	⑨																										
	縮小		④	⑧	⑩																										
	休廃止	①																													

最終評価年月日	平成29年5月19日	最終評価責任者	観光課長	北沢政英
---------	------------	---------	------	------